

# 日本ミュージアム・マネジメント学会 第28回大会開催のご案内

◆テーマ: 社会変動に対応できる新たなミュージアムの可能性

◆日程: 2023年6月3日(土)~6月4日(日)

◆会場: 乃村工芸社ビル(東京都港区台場2-3-4) ※オンライン併用

◆主催: 日本ミュージアム・マネジメント学会

◆プログラム(予定)

【第1日目】 6月3日(土)

13:00~13:40 総会 ①2022年度事業報告、②2022年度決算、③2023年度事業計画、④2023年度予算案、  
学会賞授賞式など

13:40~13:50 開会式 会長挨拶:水嶋英治(JMMA 会長、長崎歴史文化博物館館長)  
来賓挨拶ほか

14:00~14:50 特別講演「過去を未来に活かすーミュージアムへの新たな期待に応えるためにー」(仮)  
西田 治文氏(中央大学理工学部生命科学科教授・国立沖縄自然史博物館設立準備委員会委員・  
学術会議自然史・古生物学分科会委員長)

15:00~17:30 シンポジウム「ミュージアムの定義のリニューアルから見る、これからのミュージアムの役割」(仮)  
話題提供 栗原 祐司氏(JMMA 理事、国立科学博物館)  
パネリスト 青木 加苗氏(和歌山県立近代美術館)  
笹木 一義氏(国立アイヌ民族博物館)  
五月女 賢司氏(大阪国際大学)

コーディネーター 安曾 潤子氏(インクルーシブミュージアム)

18:30~20:00 情報交換会

【第2日目】 6月4日(日)

09:30~11:40 会員研究発表(午前の部6組) 15分発表 5分質疑応答

1	09:30-09:50	「ジオ・パーク,天然記念物指定地,国立公園等認定エリアにおけるフィールド・ミュージアムの在り方」	新和宏(千葉市科学館)
2	09:50-10:10	アジールとしてのミュージアム(仮)	町田 小織(東洋英和女学院大学国際社会学部国際社会学科)
3	10:10-10:30	幼児と親に豊かな博物館体験を提供するための試み ~来館者アンケートによる企画展の事前評価を通して見えてきたもの	石浜 佐栄子・加藤 ゆき・大坪 奏・広谷 浩子(神奈川県立生命の星・地球博物館)
	10:30-10:40	休憩	
4	10:40-11:00	「感覚」と博物館体験ー触覚、味覚、嗅覚、聴覚と固有感覚、体性感覚、多感覚に着目してー	島絵里子(北海道大学大学院)
5	11:00-11:20	感覚過敏の来館者のための「東京国立博物館 センサリーマップ」の制作について	鈴木 みどり・増田 万里奈 (東京国立博物館 博物館教育課)
6	11:20-11:40	視覚障害者と晴眼者が協同で細胞模型を作製する科学ワークショップ	高見沢 智子(筑波技術大学大学院)、 宮城 愛美・小林 ゆきの(筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター)

11:40~12:00 ポスターセッションインデックスプレゼンテーション

12:00~13:00 休憩

13:00~13:40 ポスターセッション(2組)

①	感覚過敏の来館者のための「東京国立博物館 センサリーマップ」の制作について	鈴木 みどり・増田 万里奈 (東京国立博物館 博物館教育課)
②	博物館における Born-Digital 地域資料の収集	大月 希望(東京大学大学院)、小川 歩美・堀井 洋(合同会社 AMANE)、小幡 圭祐・佐藤 琴(山形大学附属博物館)

13:50~15:40 会員研究発表(午後の部5組) 15分発表 5分質疑応答

7	13:50-14:10	対話しながら「考え」「行動する」ことで主体的な「学び」が体験できる「表現」を取り入れた出前授業プログラム	井上 香織(福岡市科学館)
8	14:10-14:30	災害時の資料レスキューマネジメント構築を目指したシミュレーション(DIG)について	山内 利秋(九州保健福祉大学)、佐藤 宏之(鹿児島大学)、甲斐 由香里(三重県総合博物館)、天野 真志(国立歴史民俗博物館)、丹羽 謙治(鹿児島大学)
9	14:30-14:50	対話型鑑賞法を通じたアントレプレナーシップの醸成とその評価方法の研究	西村 実花子(金沢大学大学院人間社会環境研究科)、中尾 智行(文化庁)、金間 大介(金沢大学融合研究域)
	14:50-15:00	休憩	
10	15:00-15:20	コロナ禍がもたらした動物園水族館におけるクラウドファンディングの広がり今後の課題	佐渡友 陽一・原澤 恵太(帝京科学大学)
11	15:20-15:40	地域の小さな美術館から発信する ~地域の高校生たちと取り組んだ、見えない人、聞こえない人との美術鑑賞実践	石田 留美子(さいたま市立漫画会館)

15:50~16:00 閉会式

※主催者および発表者の都合により内容を変更することがありますのでご了承ください

◆参加費(対面・オンラインともに)

会員:3,000円<早割2,000円>(学生1,000円) / 非会員:5,000円<早割3,000円>(学生1,000円)

懇親会費:5,000円

※学生料金は早割適用外です

※早割は5月12日(金)までにお振込みいただいた方が対象です

◆参加お申込み:JMMAホームページ

★第28回大会 参加申込フォーム | 日本ミュージアム・マネジメント学会 ([jmma-net.org](http://jmma-net.org))

または別紙の参加申込書より事務局までお申込みください。

お申込み期限:2022年5月30日(火)

<開催趣旨>

本学会では、2021年度の大会で、これから予想される社会変動と、社会変動に対応するためのミュージアムの課題などを、会員とのzoomを介した対話を通して深めていった。対話を通して、①社会変動に対応できるミュージアムの人材育成の重要性、②ポストコロナ時代の新たなミュージアムの可能性、に関する議論を深めることの重要性が共有できた。①に関しては、2022年度、高知で開催された大会において議論を深めることができた。2023年度は、②をテーマとして設定し、会員と共に対話を通して深めていきたい。

日本のみならず、世界中のミュージアムは、未曾有のコロナ禍を経験することで、改めてミュージアムの存在理由を認識し、その役割を果たすべく様々な方法を持ってその活動を維持してきた。また、2019年の国際博物館会議(ICOM)京都大会より継続協議だったミュージアムの定義も、ICOM会員が定義づくりにかかわるといった民主的な手法を持って採択された。そこには、accessible, inclusive, diversity, sustainability, participation of communities といった単語が用いられていることから、ミュージアムの社会的な役割が明確に記載されているといえるだろう。また日本でも、2023年4月より、改正博物館法が施行される。そこでは、ミュージアムの目的に「文化芸術基本法」の精神に基づくことが追加され、登録博物館の基準の緩和、博物館資料に係るデジタル・アーカイブ化や人材の育成、地域の活力の向上のために教育、学術・文化の振興、文化観光等の活動の推進をミュージアムに求めることが明記された。

このように、国内外からミュージアムには新たな役割が期待されている。日本でも、すでに実践しているミュージアムがある一方、具体的にどのように新たな役割を担っていくべきか、そのためにどのような活動を行うべきか、様々な条件の下で模索しているミュージアムも多いと思われる。

今回の大会では、ICOMの新しいミュージアムの定義で明確化された内容は、日本のミュージアムにおいてどのような意味を持つのか、今後のミュージアムの理想とする姿を会員とともに深めていきたい。

日本ミュージアム・マネジメント学会大会実行委員会  
東京都港区台場2-3-4(株)乃村工藝社内  
TEL/FAX:03-3570-2498 e-mail:[kanri@jmma-net.org](mailto:kanri@jmma-net.org)

**JMMA**  
JAPAN MUSEUM MANAGEMENT ACADEMY